第２回　大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会　会議録

開催日時　　平成３０年１１月１５日（木）　午後５時３０分
開催場所　　大町市役所　東大会議室
出席委員　　山﨑晃　縣邦彦　続麻純生　山崎雅之　百瀬泰慶　柳澤英幸
小林平八　海川明文　勝野英男　堀祐介　北澤豊繁　北沢伊紘男
中村勝彦　宮沢雄一　荒井英治郎　髙橋克好　吉澤義雄　谷林夏季
金原徹　奥村剛　20 名
説明者等　　荒井教育長　竹内教育次長　三原学校教育課長　倉科学校教育係長
中村学校教育指導主事　塩原学校教育指導主事

竹内次長　　１　開会
荒井教育長　２　教育長あいさつ
　前回の会議では、児童生徒数の推移やこれまで当市が行ってきた少子化に対応した取り組みなどを説明し、情報の共有を図った。
　その後、提供した資料を基に各校の学校運営協議会やＰＴＡなどにおいて、意見交換をしていただいたが、本日は、それぞれの学校等から出された意見を持ち寄り、さらに検討を深めて参りたい。
　人口が減少していく傾向にあって、地域にとって学校の果たす役割は大きなものがある一方、小規模校化は、一例として、現在検討を進めている空調設備の整備など、ハード面では、非効率な面もある。
　１学年の児童数が１５０人程度の規模となっていく現実を見据え、大町の子どもたちが将来、実社会において、たくましく自立していくためには、どのような教育が望ましいのか、様々な観点から素直なご意見を賜りたい。
竹内次長　　協議事項に入るが、ここからの進行は、当検討委員会設置規則に基づき、柳澤委員長からお願いしたい。
　４　協議
柳澤委員長　　協議事項に入る。前回のあり方検討委員会以降、少子化、小規模校化の進展に伴う課題や効果について、それぞれの学校や団体で話し合いを行っていただいているが、その際出された意見や要望について、発表していただき検討を深めて参りたい。
　事務局で整理した１６項目の視点を基に協議を進める。まず、視点１「これまで市が取組んできた少子化に対する施策について」を話し合う。事務局から説明を求める。
竹内次長　　（資料に基づき説明）
柳澤委員長　　説明が終わった。委員各位から意見等をお出しいただきたい。
A 委員　　美麻小中学校では、コミュニティ・スクールの取り組みを進めて

６年になる。地域に学校を支える仕組みが根付き、例えばＰＴＡには、地域住民も会費を支払い加入し、地域全体で学校を支えている。

また、以前、美麻小中学校には、入学生が２名しかいない時期があり少人数化が危惧されたが、小規模特認校制度が導入され、現在では、美麻小中学校の教育の特長を理解した保護者に支持され、市内から多くの児童生徒が通っている。児童にとっても地域にとっても学校にとっても良い取り組みである。

B 委員　ＰＴＡの会議などで各校の雰囲気を聞くと、特に旧市内の学校において、コミュニティ・スクールについて、知っている、あるいは理解している人が少ないとの意見を聞く。住民が学校に関わりを持ち、地域で子どもたちを育む大切な取組みであるが、周知が不足していると考える。

C 委員　南小学校のコミュニティ・スクールの取組みを一部紹介したい。まず、学校の年間計画を見通した上で、先生方から要望を出してもらい、学習支援や環境整備等、いくつかの分野ごとに活動を展開している。

学習支援では、学校から、特に郷土学習について協力を得たい旨の要望が多くあり、必要に応じ、常盤地区全体に協力を呼び掛けて支援者を募っている。

コミュニティ・スクールの理解が進むには時間がかかるので、根気よく周知を重ねるとともに、学校の要望を逐次地域に知らせることが必要である。南小学校では、一歩ずつ進んでいる実感がある。

荒井教育長　コミュニティ・スクールのベースは生涯学習活動と深い関わりがあり、通学区と公民館が受け持つ範囲が同じところは、比較的コミュニティ・スクールの取組みが進みやすく理解も浸透している。通学区と公民館との関係の整理についても検討を要する。

柳澤委員長　他に発言がないようなので、次に進む。視点２「学校運営・経営」について協議する。事務局から説明を求める。

竹内次長　（資料に基づき説明）

D 委員　小規模化の進展がもたらす影響は、一長一短あると感じている。先進他国の例では、１学級の定員は日本の基準より少ないと聞いている。生徒指導の面でも少人数、小規模の学校に効果があると思うが、一方で、運営効率の低下や管理経費の増加が懸念される。どの規模が適当なのかを探っていく必要がある。

荒井教育長　学級の規模について、長野県では、３５人を基準としているが、一学年に複数の学級がある場合は、１学級３０人を超える学校もあれば、単級の場合は、１学級数名程度の実態もあり、同じ３５人基準であっても大きく様子が異なることを改めて認識いただきたい。また、理科、音楽、家庭科など専科教員の配置人員については、学

級数に応じて定められていることから、学級数が少ない小規模校では専科の先生の配置について影響があることをご認識いただきたい。

柳澤委員長　他に意見等はないか。ないようなので次に移る。視点３「教職員の配置、加配について」検討したい。事務局から説明を求める。

竹内次長　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　少子化、小規模校化に伴う教職員の配置、加配について課題や効果についてご発言をお願いする。

E 委員　一般的に児童生徒数の減少による小規模校化の進展は、個に寄り添った指導が望める一方で、先程、教育長から説明があったように配当される教員数が減る問題が生ずる。バランスを考え、どの程度の規模がもっとも望ましいのか検討していく必要がある。

C 委員　現在、市教委では、先生方の働き方改革、学校の業務改善を進めているが、その先進的な取組みを評価したい。

また、第１回の検討委員会で示された資料によれば、必要に応じ、加配教員の配置についても配慮がなされている。少人数化が進んでも、国、県等の基準によらず、市において教員の配置をお願いできないか。少人数におけるきめ細かな教育の実現と先生方の長時間勤務の改善の点からも要望したい。

F 委員　教員の配置について、小規模校は、先生の数が少ないことから、ある程度の規模がある学校に比べて特に文化祭、運動会等の行事で教員の負担が多いと感じる。また、大規模な学校に比べ、先生方一人ひとりの力量が大きく求められる現実がある。

柳澤委員長　他に意見はないか。ないようなので次の検討事項に入る。視点４「校舎や学校施設について」を協議する。事務局から資料の説明を求める。

竹内次長　（資料に基づき説明）

C 委員　学校の施設や環境の整備の面は、コミュニティ・スクールの活動として取組みがしやすい分野である。学習支援等の分野では、二の足を踏むが、草刈りや花壇づくりなどには、協力できるという方も多い状況である。ボランティアに加わった地域の方は、地元の子どもたちが通う学校の環境整備に関り、改めて学校に愛着を感じたようである。今後、さらにコミュニティ・スクールを推進し、地域の力で学校の環境を守り、維持することは可能と考えている。

柳澤委員長　他に意見はないか。なければ次の検討に入る。視点５「学校間の連携について」を協議する。事務局から資料の説明を求める。

竹内次長　（資料に基づき説明）

G 委員　私たちを取り巻く環境が大きく変化する中、我々が今、検討しなければならないことは、大町の子どもたちが将来、社会に出るまで

にどのような力を身につけさせなければならないのかである。課題に対して自身で考え、追求し行動する力を育むには、学び方をどうするのかが重要と考える。それにはまず、大町の子をどういう子に育てたいか、子どもたちの実態を観察しながら方針を立てる必要がある。その際、義務教育のみにとらわれず、個を確立していく大切な時期である、乳幼児から幼稚園・保育園から連続した教育方針の樹立が必要である。現在、市では子育て支援課と教育委員会と組織が分かれているが、より連携を図るためには一体化の検討も必要である。

さらに大町には、岳陽高校があるが、大町の子の学び方を連続させるため、高校の現場からも意見を求めてみたい。

柳澤委員長　学校間の連携について他に意見はないか。なければ次の検討に入る。視点６「発達段階に応じた育ちや学習について」を協議したい。事務局から資料の説明を求める。

竹内次長　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　委員のみなさんからの意見を求める。

Ｈ委員　資料に、小規模校化により、人間関係が固定化する旨の課題が複数記載されている。児童生徒に社会性や社交性を身に着けさせることが大切であるとの認識は、皆さんの一致した意見であると考えるが、そのために、ある程度のクラス数を保つのか、あるいは、そうしないで指導方法の工夫をすることで、必要な能力を育んでいくのかという点が大きな分岐点になろうかと思う。

本日、ここで結論が出るわけではないが、子どもたちが、互いに競い合い、切磋琢磨しながら成長していく教育効果を得るために、具体的な指導の場面で、どういう集団が望ましいか、今後、多くの皆さんから知恵を出し合っていくことが必要である。

Ｉ委員　子どもたちには、様々な経験をして欲しいと考えている。と言うのは、例えば私は、大人になるまで林業という仕事がどのようなものかを知らなかった。一般的に、子どもたちが自身の将来や進路を考える際、それまで自分が見たことや経験したことを基にして考えていくと思うが、知らないことには、思いが及んでいかない。ついては、子どもたちの可能性を広げるために、学校におけるキャリア教育充実や実体験の充実を望む。また、地域の活動にも積極的に関わりを持ち、多様な経験をさせることが必要と考える。

柳澤委員長　他に意見はないか。それでは、次の観点７「児童生徒の対人関係、社会性の涵養」について話題にする。

事務局から資料の説明を求める。

竹内次長　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　委員のみなさんからの意見をお出しいただきたい。

J 委員　　八坂学校運営協議会から出された意見を紹介したい。八坂は、山村留学発祥の地であり 40 年以上に渡り、地域が協力して山留事業を支援している。

地元の子らは、山留生に刺激を受けるとともに、山留生との交流をとおして子どもたちなりに社会性を身につける機会となっている。

このように、少人数の環境であっても社会に出たときに必要なことを学ぶ方法はあるのではないか。

柳澤委員長　　他に意見はないか。

K 委員　　東小の学校運営協議会で話し合った際に出された意見の中に、少規模校化に伴う課題に、児童の対人関係について危惧される意見があった。一般的に小さい学校では、交流の広がりの幅が狭くなり人間関係が限定的になるのではと心配する声である。

これに対し、学校では、学年を超えた縦割りの交流などの対応をとっているとのことであった。

先ほどの話題の「学校間の連携」は、この課題の対応策として考えられるのではないか。合同の音楽会、部活の合同チーム化など、大町市全体で子どもたちの交流を促進することで、社会性を育む環境を整えられないか考えていきたい。

柳澤委員長　　児童生徒の対人関係、社会性の涵養について他に意見はないか。それでは、次の視点「いじめ、不登校に対する対応」について協議する。事務局から資料の説明を求める。

竹内次長　　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　　委員のみなさんからご意見をお出しいただきたい。

特にご発言がないようである。ただ今の説明のとおり、少人数であれば意思疎通がしやすく、いじめなどが少なくなると思われ、また、個別の指導が行いやすい反面、特定の人間関係の中では、一旦崩れた人間関係の改善が図られない場合、居場所を失うなどの意見が出されている。この件に関し、後ほどでもよいので意見があればお出しいただくこととし、次に進む。九つ目の視点少子化に伴って「児童会、生徒会、部活動について」はどうか議論したい。事務局から資料の説明を求める。

竹内次長　　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　　ご意見をお出しいただきたい。資料によると３０ほどの意見が出されているが、内容を見てみると、少子化、小規模化の進展は、児童会や生徒会あるいは部活動には、効果よりデメリットを挙げる意見が多いようである。

私見であるが、特に中学生期は、友達や仲間から学び合うことが多い時期であり、多様な仲間がいる環境の中で、競争し合い協力し

合い、時には反目しながら育っていくという意見に賛同を覚える。
　特にご意見が出されないので、次の視点について話し合う。「通学について」である。事務局に説明を求める。

竹内次長　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　通学の面から考えたメリット、デメリットについてであるが、ご意見をお出しいただきたい。

L 委員　北小学校では、コミュニティ・スクールの活動として、「一緒に帰ろうデー」と名付けた児童と一緒に下校する取り組みが行われている。これは、主に事故防止や防犯の観点から行うものであるが、この活動をとおして子どもは、地域の大人を覚える機会となる。また、大人もこどもの名前を覚える。
　この活動は、地域の大人が学校に関わるきっかけや関わりやすさにつながっている。
　仮に学校の統合などがなされ、いくつかの学校がまとまった場合、スクールバスでの通学が考えられるが、その場合、こうした活動もなくなってしまう。また、距離が遠くなれば地域との結びつきも薄れていくと思われる。

柳澤委員長　他に意見はないか。ないようである。次の視点「給食について」を協議する。この視点について事務局から説明を求める。

竹内次長　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　委員各位からご意見をお願いしたい。

M 委員　子どもの人数が少ない学校では、小回りが利いて食材や調理方法に特徴を持たせることが可能ではないか。給食を基とした食育の充実も考えられる。一方で効率化という観点からはマイナスでコスト高となると考える。

柳澤委員長　学校給食について他に意見はないか。ないようであるので次の項目「ＰＴＡ活動、保護者との連携や関わりについて」を協議する。まず、事務局に資料の説明をお願いする。

竹内次長　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　少子化はＰＴＡ活動や保護者との連携にどんな影響があるのか。ご意見をお出しいただきたい。

N 委員　ＰＴＡについては、以前より活動しやすくなっていると感じている。保護者同士の連携が密になるとともに先生と保護者が互いに顔がわかる関係となっている。しかし、昨今、忙しいと言う親が多く、積極的にＰＴＡに関わる保護者が少なくなっている現状がある。

G 委員　学校の規模が小さくなることでＰＴＡの負担が大きくなったり、活動内容が限られてしまったりするという課題については、先進的にコニュニティ・スクールに取組んでいる美麻で実践されているような、地域とＰＴＡと一体となって活動いく例が、解決の参考にな

るのではないか。

C 委員　　ＰＴＡと地域との連携がさらに必要と思われる。子どもたちが地元の行事に参加し、様々な体験をすることは、地域を知ることや対人関係を学んだりすることにつながる。

柳澤委員長　　他に意見はないか。なければ、次に移る。次の「学校と地域の連携、地域に根差した学校づくり」視点と「地域の中でのつながりや支え合い」については、関連があるので一括して取り扱う。事務局に説明を求める。

竹内次長　　（資料に基づき説明）

G 委員　　小学校区と中学校区が一致しない学校、具体的には西小学区であるが、小学校からの連続性の点で課題がある。また、近い将来、旧市内の２つの中学校は、統合したとしても１学年５クラスとなると見込まれる。教員の配当は、基本的に学級数で決まり、技能系の教科においては教科一人の配置となってしまう。これはでは教科会もできない状況であり、特に新卒の先生が赴任した際は、相談相手がいないこととなり不安を覚える。

また、行政の区域と通学区が一致しない地域については、小学校の場合、教育に地域との関わりが重要な要素であるにもかかわらず連携が難しいこととなる。

これらの課題の解決は、簡単ではないと予想されるが、大町の子どものために何をどう変えていけば良いかを念頭に議論を深めたい。

F 委員　　地域との連携の点から話をしたい。美麻では、地域の文化祭を学校の総合発表会の場として活用している。もっと踏み込んでいうなら、学校がないと文化祭が成り立たない状況にもある。ＰＴＡ活動に地域住民も加わっており、連携と言うか学校を中心とした地域になっていると感じている。

柳澤委員長　　他に発言はないか。ないようなので次に入る。次に「望ましい教育環境」の点から議論していきたい。まず、資料の説明を事務局に説明を求める。

竹内次長　　（資料に基づき説明）

柳沢委員長　　説明が終了した。ご意見をお出しいただきたい。

K 委員　　私の考えであるが、小学校については、小規模校化がある程度進んだとしても地区ごとに残して欲しいと考えている。小学校は、地域の中心となっている現状があり、小学校あってこその地域となっている。学校は、地域の文化を支えるとともに活性化や振興にもつながっている。例えば、社地区の文化祭についても小学校の協力がなければ成り立たない。ついては、少子化が進んで小規模校となっても、効果のある教育方法を検討すべきと考える。

O委員　望ましい義務教育について具体的な考えは持ち合わせないが、自身の体験を基に述べさせていただく。私の子は、八坂のたけのこ保育園に通わせているが、それは、たけのこ保育園の立地だとか少人数による保育の環境が子どもにとって望ましいと考えたからであり、住所を旧市内から移転してまでして入園させている。

年齢の低いうちは、少人数な環境で、先生の目が行き届く中、一人ひとりを生き生き育むことが大切と思う。一方で成長の過程では、大勢の友だちから刺激を受けたり、競争しながら社会性を身に着けることも大切である。この人との関わりの部分について、我が家では、学校の教育とは別に、運動あそび教室に通わせること等で補っている。子どもを育む基本は、家庭である。少子化の進行に伴う課題は、家庭教育が充実し揺るぎないものであれば、補うことができるのではないか。

柳澤委員長　本日は、少子化の進行により、子どもたちにどのような影響があるのか話し合ってきた。全体をとおしてでも構わないのでご意見をお出しいただきたい。事務局から説明があればお願いしたい。

竹内次長　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　ご意見をお出しいただきたい

P委員　いくつかの視点に基づき意見が出されたわけであるが、少子化、小規模校化の進展は、効果と課題両面を併せ持っている。これから考えていかなければならないのは、メリットの部分を生かしながら課題の部分を解決する方法があるのかを検討していくことである。本日の出された意見にいくつか解決に結びつくヒントがあった。家庭、地域、学校間の連携などであるが、こうしたことにより課題が解決できれば、小規模校化は必ずしも否定されるものではないと考える。しかし、解決できない場合は、望ましい学校教育を念頭に小規模校化にならない方法を考えることになっていくと思う。

行政としてもできる部分から検討を加えたい、一例を申し上げれば、本日、給食について話題になったが、資料に自校給食の継続を望む意見が挙げられている。現在、実情として調理員の確保が困難になっていると聞くが、この課題についても例えば、民間の力を取り入れる方法も考えられる。行政としてできることから検討をして参りたい。

H委員　それぞれの立場から多様な意見が出されたところである。同じ市に住んでいても違う考え方や意見があることに気づかれたと思う。

また、検討に当たり、行政的な観点からは、どうしてもコストを考えていかなければならず、現状を維持していくためのコスト、適正化する場合のコストについて検討をお願いしたい。大町市の子どもたちを、どう育てたいかを皆さんが共有したううえで、先ほどP

委員がおっしゃたように、課題についてどのような手当てができるのかを検討する必要があると思っている。

もう１点、地域づくりは、学校づくりとの旨の意見がたくさんあったが、これは、必ずしも両立しないものである。

何のための学校か、地域の核となってはいるが学校は子どもたちを育むためにあることを認識しておいて欲しい。これは感想である。

Q 委員　本日話し合われた内容を保護者等に周知する必要性を感じた。特に中学校の保護者に、もう卒業するのであまり関心を持たないという方もあるのではないか。しかし、これは学校だけの課題ではなく地域課題でもあるので大勢の皆さんに知っていただきたい。

荒井教育長　本日は、各学校や団体から出された意見や考えを率直に話し合っていただいた。今後、事務局においてさらに課題を整理して参りたい。

例えば、学校と地域の関わりの部分では、学校側では、児童生徒ための教育効果に重点を置いて検討したいと考えるが、住民の方々は、学校を中心とした地域振興についての考えがあると思う。また、地区によっても差があり、美麻や八坂では学校の小規模校化を現実のものとして捉えているが旧市内では、あまりそのように捉えられていないのではないかと感じている。

このようなことを含め課題を整理してお示ししたうえで、具体的に、現在の教育環境が望ましいのか、どのような手当てが必要なのかこの委員会として提起していただきたいと考えている。

今後、保護者に対しアンケート調査を実施し、その後、市民の皆さんに現状を知っていただくため広報を使って周知し、市民アンケートも行って参りたいと考えている。

柳澤委員長　他に意見がなければ次の協議事項（２）保護者アンケートについて、及び（３）今後の進め方について協議する。２項目併せて説明をお願いする。

竹内次長　（資料に基づき説明）

柳澤委員長　ただ今説明のあったアンケート及び今後の進め方について、ご意見等ないか。

E 委員　アンケートに学級規模等を問う設問があり、国等の基準の説明が付されている。設問の趣旨は、国の基準を問うものでなく、現在、保護者が通わせている学校の規模について問うということで良いか。

竹内次長　そのとおりである。分かりにくいものではいけないので、ご指摘の点の表現について、検討したい。

柳澤委員長　他にご発言はないか。ないようである。それでは以上で協議事項を終了とする。会議の進行を事務局に戻す。

竹内次長　　その他についてである。事務局からは特に申し上げることはない。委員の皆様からご発言はないか。

L 委員　　教職員の働き方改革についてである。先生方の長時間労働が言われる中、大町市では学校業務の改善の取組みがなされているところである。今後の検討に際し、この点についても触れて欲しいと考える。また、時代の流れに沿ってＩＣＴを活用した学校間連携も話題にして欲しい。

竹内次長　　今後の検討委員会、あるいは研究部会のなかでの協議材料として扱って参りたい。他にご発言ないか。ないようであるので閉会としたい。閉会のことばを勝野副会長からお願いする。

勝野副委員長　　（閉会の言葉）

午後７時３５分閉会